

件名	柏崎刈羽原子力発電所2号機の原子炉隔離時冷却系の不具合について
通報日	平成16年10月31日
概要	<p>当所2号機（沸騰水型、定格出力110万キロワット）は、定格熱出力一定運転中ですが、本日、原子炉隔離時冷却系<sup>注1</sup>の定例試験のため、原子炉隔離時冷却系を起動したところ、当該系統のタービンの回転数が上昇しないことから同系統を手動で停止いたしました。このため、午前10時57分、保安規定に定める「運転上の制限」<sup>注2</sup>を満足していないものと判断いたしました。</p> <p>保安規定に基づき、同系統が不調の場合に要求される措置として高圧炉心スプレイ系<sup>注3</sup>、および自動減圧系<sup>注4</sup>の機能チェックを実施いたしました。これらの機能チェックの結果は良好であり、安全性に問題はありません。</p> <p>今後、不具合箇所の特定および原因調査を実施いたします。</p> <p>注1：原子炉隔離時冷却系 原子炉水位が異常に低下した場合に、原子炉内に水を補給するための設備です。なお、本設備は、非常用炉心冷却系ではありません。</p> <p>注2：運転上の制限 保安規定では原子炉の運転に関し、「運転上の制限」や「運転上の制限を満足しない場合に要求される措置」等が定められており、運転上の制限を満足しない場合には、要求される措置に基づき対応することになります。</p> <p>注3：高圧炉心スプレイ系 非常用炉心冷却系の1つで、原子炉水位が異常に低下した場合に、原子炉内に水を補給するための設備です。</p> <p>注4：自動減圧系 非常用炉心冷却系の1つで、原子炉水位が異常に低下した場合に、万一、高圧炉心スプレイ系が起動に失敗した際に、原子炉の圧力を下げ、低圧の非常用炉心冷却系による原子炉への注水を促進するための設備です。</p> <p>（平成16年10月31日 プレス発表内容）</p> <p><a href="http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/16103101.pdf">http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/16103101.pdf</a></p>